Architectural Institute of Japan

9088

日本建築学会大会学術講演梗概集
（関　　東）昭和63年10月

大正11年大阪箕面・桜ヶ丘住宅地と住宅について

正会員　吉田 高子

はじめに

関西における中流階級の住居形式の成立について、前回に引きつづき、建築年代が明らかで、建築当時の平面・立面・透視図・外観写真・室内写真・設計主旨まで残っており、かつも12戸の住宅が現存している大阪府箕面市桜ヶ丘の住宅地と住宅を調査し、これにより今日の住居形式の成立過程を考察することにする。なおこれは日本建築協会創立70周年記念事業「住宅展委員会」の協力を得たものである。

1.桜ヶ丘に於ける近代住宅地計画

地主田村真策氏は,大阪で香料商を営んでいた人で桜ヶ丘住宅地開発を計画していた。この地を借りて日本建築協会は、大正11年9月21日から11月26日まで約2ヶ月間にわたり「住宅改造博覧会」を行なった。会場は15000坪の敷地で、内5000坪(1.65ha)を実物住宅街としてここに「改造住宅」が建てられることになった。

この住宅街の基本計画は、近代日本における都市住宅地の整備をも目指していた片岡安を中心とする日本建築協会の提案であったと考えられる。

ここで構成された住宅街は小規模ではあるが、環状(半円の同心円状)・放射線状に道路を配する形を基本としている。これは、E.ﾊﾜｰﾄﾞの田園都市の形態的模倣と見ることができる。ここに40区画の宅地が設けられているから、1戸当り平均412.5㎡の宅地面積となっている(但し道路面積も含む)。出品住宅の建てられたのはこのうち25区画であった。宅地面積は300㎡前後つまり90坪から100坪のものが多い。

この住宅地は上下水道設備・電灯設備・桜ヶ丘倶楽部・売店等を備えており、上水道は桜ヶ丘給水槽より各戸に給水された。

2.「住宅博」出品住宅に見られる特徴

出品戸数は25戸でその内訳は日本建築協会の出品が8戸(いずれも改良住宅懸賞募集入選作品に手を加えたもの)、建築業者・建築事務所などよりの出品17戸であった。

これらはいずれも我国の住宅近代化に向けて、従来の伝統的形式にとらわれない外観・室内・平面構成・設備を試みたものであった。それらの傾向を総括すると次のようなことがいえる。

1) 延床面積　35坪前後

2) 様式

ｱﾒﾘｶﾝﾊｳｽに属するものが多いが、出品者の申請によると様式名はｺｯﾃｰｼﾞ式・ﾊﾞﾝｶﾞﾛｰ式・和洋折衷式などとしている。ﾊﾞﾝｶﾞﾛｰ式とは外観は1階半建てで、屋根裏に2階を持つ形態をとっているものであるが、ｺｯﾃｰｼﾞ式または和洋折衷式が現代中流住居の外観に繋がるものと考えられる。

3) 構造

在来和式構法によるものが殆どであったが、ﾂｰﾊﾞｲﾌｫｰ構法によったものもあった。(大林組出品住宅 B号ほか)また、基礎は煉瓦根積、外壁ﾓﾙﾀﾙ塗り、切妻屋根、赤瓦葺き、片開き戸、両開き窓、上げ下げ窓、煉瓦積煙道などの特徴を持つものが多い。

4) 設備

上水道により、台所・浴室・便所・洗面所・庭園に給水が可能となった。便所は水洗式(各戸に汚水浄化装置を備えるもの)または大正式改良便所とした。暖房は温水による集中暖房方式が試みられた。これらによる冬季の快適さがどのようであったかは判らないが、使われていないﾗｼﾞｴｰﾀｰが今も取り付いたままの家もある。現在はいずれも別の暖房方式(ｽﾄｰﾌﾞが多い)に変わっているが、天井が高く、椅子式の居間・食堂が広くとられている家では暖房は容易でないようだ。このことから見ても、住宅の椅子式化と暖房設備とは大きく関連すると見ることが出来る。

5) 平面的特徴

部屋機能の明確化　在来和風住宅の各部屋が畳の畳数で呼ばれていたのに対して、それぞれに部屋名が付けられ、その用途を明確にしている。(居間、食堂、夫婦寝室、子供室、老人室、女中室、応接室、書斎、主婦室、玄関

On the Sakuragaoka Residential Land and House in 1922

9088

YOSHIDA Takako

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

広間等)

平面型　広間(ホール)中廊下結合型が多いが、現在の分譲住宅の平面と余り変わらないものもある。また、広間中心型では部屋の通り抜けをしなくてすむ幅広廊下型の広間とするものもある。居間中心型は広間を持たず、居間に直接玄関土間の取り付くもので2戸あるが、余り整ったものでは無い。

玄関の形式　靴を脱ぐ習慣と洋式住宅との接点の扱い方で、3つの型が考えられたが、結果的には玄関広間にとられた土間で靴を脱ぐという折衷案を洋風住宅にとりいれる方法が一般化した。

居間・食堂　いずれも洋式・家具付きで提供され椅子式生活を推し進めようとしたことがわかる。居間・食堂境は開放型が多い。食堂に3畳程の畳敷を一段高く作り、座式の食事等に備えたものもある。

台所　女中の存在により食堂は必ずしも隣接しない。台所は3坪程度の板敷きとし作業は床上に上がり、土間は0.5坪程度の踏み込みとなる。

寝室　夫婦寝室は和式または洋式。　子供室は、勉強室(板敷き)と寝室(畳敷き)を結合した形が多いが、子供室を2室以上とることはない。

女中室　台所の近くで3畳程度の和室に押し入れのついたものが多い。

接客空間　客室の廃止は住宅改造の要点の一つであり、和室の二間続きの客間は採られなかったが、書斎を兼ねた洋式の応接間は殆どの家で設けられており、接客重視の傾向はなくなっていない。

現存住宅と出品会社名

① 大林組(B)
② 片岡建築事務所(乙)
③ 横河時介氏
④ あめりか屋
⑤ 鴻池組
⑥ 大阪橋本組
⑦ 片岡建築事務所(甲)
⑧ 日本建築協会第一号
⑨ 同　第三号
⑩ 同　第四号
⑪ 銭高組
⑫ 日本建築協会第六号
⑬ 竹中工務店(B)　昭和63年破却
⑭ 葛野建築事務所　昭和62年破却
A 元、桜ケ丘倶楽部

図-1　博覧会跡地と出品住宅街の現状

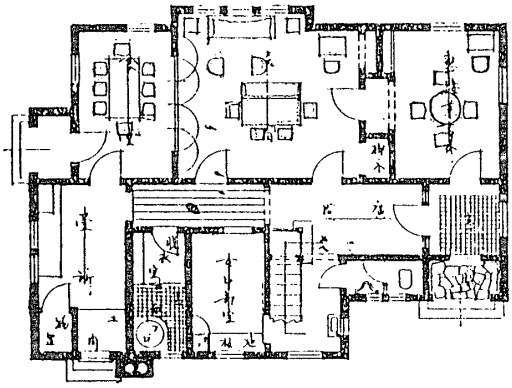
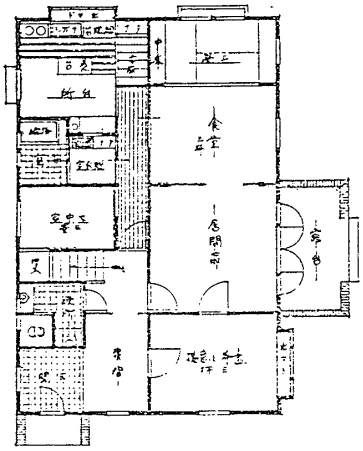


図-2　出品住宅の平面

その1　閉鎖型広間と床上台所



その2　開放型広間と広土間台所
畳間付き食堂

近畿大学講師・工博

NII-Electronic Library Service